

平成31年2月28日
国立大学法人東京大学

**世界の研究者・知識人と新たな知を拓き、伝える。
東京カレッジを開設しました。**

このたび国立大学法人東京大学 東京カレッジ(英文名称:Tokyo College、カレッジ長:羽田正)が設置されました(設置日:2019年2月1日)。名誉カレッジ長としてサー・アンソニー・レゲット教授(2003年ノーベル物理学賞、イリノイ大学教授)を迎えます。

東京カレッジは、卓越した教育研究を展開する国内外の研究者や知識人が、分野を超えて切磋琢磨する場を作り、その成果を広く国内外へ発信することを通じて、「地球と人類社会の未来に貢献する『知の協創の世界拠点』の形成」の実現に寄与することを目的としています。さらに、これらの活動を通じて、東京大学、さらには日本の国際求心力を高めることに貢献することを目指します。

東京カレッジには本学の卓越教授(注1)が所属(兼任)します。また、海外の有力な研究者及び知識人を受け入れ、本学の部局教員との共同研究を推進し、定期的な研究会の開催などを通じて、充実した研究成果の発信を行います。また、所属研究者等による一般講演会の開催等を通じて、学問の魅力や、未来社会の創造に果たす大学の役割の重要性を広く社会に伝えます。

東京カレッジでは、以下のテーマに基づいて理系・文系を超えた分野融合の研究を進め、その成果を発信していきます。

カレッジ全体として中長期的に追求する主たるテーマ:

「2050年の地球と人類社会」(The Earth and Human Society in 2050)

このテーマのもとで当面取り組む重点テーマ:

1. デジタル革命と人類の未来 (Digital Revolution and Future of Humanity)
2. 学際的アプローチによる地球の限界への挑戦 (Tackling the Planetary Boundaries through Interdisciplinary Approaches)
3. 内から見た日本、外から見た日本 (Japan Viewed from Inside and Outside)
4. 2050年の人文学～世界哲学、世界史、世界文学～ (Humanities in 2050 - World Philosophy, World History and World Literature -)

また、「発見の喜び、知識の力(Joy of Discovery, Power of Knowledge)」という枠組みも設け、上記の4テーマに限らず卓越した研究者を招聘します。

東京カレッジは、学術の卓越性の向上、及び研究環境の国際化を推進する全学組織である東京大学国際高等研究所の下に置かれます。また、総長を本部長とする未来社会協創推進本部(Future Society Initiative: FSI、注2)とも緊密な連携を行います。

東京カレッジウェブサイト

<http://www.tc.u-tokyo.ac.jp>

注1:卓越教授

梶田 隆章 教授(宇宙線研究所所長、東京大学特別荣誉教授)

十倉 好紀 教授(工学系研究科教授)

本学教授のうち、専門分野において特に優れた業績を挙げ先導的な役割を果たしている者で、

(1)ノーベル賞の受賞者又は文化勲章の受章者

(2)ノーベル賞・文化勲章に準ずる賞の受賞者又は同等の業績を有する者として部局長が推薦した者で、教育研究評議会の審議を経て役員会が決定した者に授与する称号。

注2:未来社会協創推進本部(Future Society Initiative: FSI)

2017年7月に総長を本部長として設置され、東京大学憲章に示した「世界の公共性に奉仕する大学」としての使命を踏まえ、SDGs を活用して地球と人類社会の未来への貢献に向けた協創を効果的に推進することを目的とする。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/fsi/ja/index.html>

お問い合わせ先:

東京大学国際戦略課 副課長 坂尾 雅実

電話:03-5841-0490

メール:intl-strategy.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

五神真 総長コメント

20世紀半ばに誕生した半導体エレクトロニクス技術は、コンピュータ、インターネットに代表される新しい情報通信の機器や環境を生みだし、社会経済を支える不可欠の基盤となりました。その進歩と波及は、今いっそう加速しています。インターネットによって繋がれたサイバー空間には、国境を越えて膨大なデータが時々刻々と蓄積され、増殖しています。そして、近年の人工知能技術の革新は、その巨大なデータの活用の道を開き、我々が暮らす物理空間とサイバー空間の高度な融合という、かつて人類が経験したことのない新しい状況をもたらしています。これは、デジタル革命とも呼ばれ、経済的な価値を担う媒体が“もの”から“データ”へと不連続に転換するなかで、世界は急速にかつ大きくその姿を変えつつあります。こうした社会の転換が地球と人類をどこに向かわせるのか、その未来図を予測することは容易ではありません。



私は、この転換には、さまざまな格差や、気候変動、温暖化、排外主義、紛争・対立等、我々が今抱えている地球規模の課題を乗り越え、より良い未来に導く大きな潜在力があると感じています。全ての人々が多様な個性を活力として、生き活きと活動し、その中で、地球と人類共に調和を保って持続的に発展することができるのです。しかし、この転換が、データの独占のような新たな課題を生み出すとともに、むしろ我々が直面している課題を決定的に深刻化させ、世界を不安定にしてしまうという、逆のシナリオも存在します。

より良い未来社会へと転換させるためには、どうすればよいのか。個々の人々が、変化を恐れるのではなく、良いシナリオを選び取るのだという強い意思と希望を持つことが必要です。そしてそれを多くの人々と共有し、共に知恵を出しあって行動し、大きな力を生みだしていかなければなりません。東京大学は、その活動の舞台のひとつとなることで、より良い社会に向けた変革を駆動したいのです。東京大学は創立以来 142 年にわたり、日本の学術の伝統を引き継ぐと共に新たな知を生みだし続けてきました。この機能をいっそう高めるために、このたび新たに「東京カレッジ」を創設することにいたしました。

「東京カレッジ」では、世界中から招聘したさまざまな分野の卓越した研究者と本学の多様な研究者の接触を通じて新たな知を創出し、それを世界に発信していきたいと思えます。文系理系といった旧来の学問の枠を越え、新たな学理の原点と潮流が生みだされることを期待しています。また、学生には、最先端の知に日常的に触れる環境を提供し、世界を舞台に活躍するための力を鍛えてもらいたいと考えています。

さらに重要な役割は、こうした最先端の知とそれを生み出す現場の大切さを広く市民に伝えることです。学問研究が如何に多様な時間空間のスケールで営まれているのか、その奥深さ、広がり、そしてその面白さを肌で実感していただきたいのです。そうすることによって、大学や学問をもっと身近に感じてもらいたいと考えています。

東京カレッジを通じて、本学の未来社会協創の理念に共感し、共に活動してくださる人々の輪を一層広げていきたいと考えています。今後の活動にご期待ください。